

愛は南から――

2人の受賞者

第45回近代日本美術協会展

愛南町在住の中山以佐夫さんが、第45回近代日本美術協会展（近美展）で文部科学大臣賞を受賞されました。また、同じく倉田満子さんも理事長特別賞を受賞。町内から2人がそろって受賞する快挙となりました。



文部科学大臣賞

「秋の谷間」

中山以佐夫さん

中山さんは、平成11年から本格的に油絵を始め、佐間田敏夫氏に師事して、自らの画風を磨き上げてきました。これまでも

平成24年の「第39回近美展」で内閣総理大臣賞を受賞するなど、数々の名誉ある賞を受賞しています。

そんな中山さんが今回の受賞作品では、秋の深まりと共に壮観さの増す渓谷をキャンバスに写し取りました。



「難しいのは、主役の脇で主張しすぎず埋もれすぎずにある部分です。細部の草や石がすべて鮮やかに描かれていると見ていて疲れてしまう。かといって朦朧としすぎていてもいけない。そこはいつも最後まで手直しをします」と話す中山さん。現在は、「第35回地域を描く美術展」（西条市を描く絵画展）に向けて意欲的に創作を続けています。

理事長特別賞

「漁港」

倉田満子さん

一方、平成19年の「地展」（愛南町を描く絵画展）から本格的に油絵に取り組んでいるという倉田さん。「近美展」では、これまで毎年入賞してきました

が、今年は初めて理事長特別賞を受賞しました。

学生時代から絵が好きで、とにかくたくさん描くという倉田さん。受賞作品は西予市三瓶町を訪れたときに印象的だった「漁港」がモチーフ。そのときに撮影した写真をもとに描きました」と話します。



25年前から取り組む陶芸では、「創造展」（創造美術会）で数々の賞を受賞しており、経営する喫茶店には、所せましと作品が並びます。

「絵画と陶芸、そこに通じる感性は同じ」とは、師事する渡辺祥行氏の言葉。倉田さんは現在、「創造展」に出品する陶芸作品の制作に取り組んでいます。